



## 絵本は、親子の絆を深める！



熱い思いを語られる青沼先生

子どもたちは、絵本を読んでもらうのが大好きです。幼稚園では、担任が、帰前の時間を利用して、子どもたちに読み聞かせをしています。

ご家庭でも、子どもたちに読み聞かせをしたいが、どんな本を読んだらよいか分からないという声に応えるために、読書ボランティアの主催で、先日 22 日(月)に、「親子で楽しむ絵本」と題して、青沼先生による絵本のミニ講座第 1 回が開かれました。

流石に保護者の皆様の関心が高く、約 80 名の方が、先生の熱の籠ったお話に傾聴されました。「絵本の世界は、親子の絆であり親子の宝」という言葉が強く印象に残りました。子どもの脳は 10 歳位までにほぼできあがりますが、それまでに脳に刺激を与えることが大切です。だからと言って毎日の絵本の読み聞かせが、直ぐに目に見える学力としての知識・理解、思考力や表現力に直結するものではない。想像力や意欲などの感性的な側面を育てるのに有効であるということでした。

そこで、親は、将来の役に立つからとか、学習に役立つからといって、本を与えてはいないだろうか。幼稚園では自然に恵まれているので、季節に応じた体験を重視している。その体験と結んで関連した絵本をタイムリーに読み聞かせることによって、知性的な面が育てられるということ。

また、子どもは平仮名を読めても、お話として読むことはできないので、大人が代わって読んであげるのが一番大切であるということでした。

先生自身が、娘さんに何千冊と読み聞かせをされた体験談から話をされたので、非常に説得力があり、保護者の皆さん一人ひとりが深い感銘を受けられ帰路につかれました。

さあ、皆さんも子どもたちのために、一日一回の読み聞かせを実践してみましょう。

## 美味しかった、よもぎクッキー

よもぎは、飲んでよし、食べてよし、嗅いでよし、塗ってよしなどといわれ、日本では、昔から万能薬として重宝されていました。

幼稚園の周辺には、この万能薬であるよもぎがいたるところでみられるため、年中の学年行事としてよもぎ団子づくりが定着していました。

今回は、初めての試みということで、25 日(木)に楽しいよもぎクッキー作りがありました。登園した順に、クッキー作りです。子どもたちは、小さな手にすりこ木を持ち、すり鉢に入ったよもぎを、ぎこちなくすりすります。子どもたちにとっては、きっと初めての経験でしょう。ぎこちなくするのも当然です。しかし、中には、力強くする子もいます。周りにいた子どもたちの「1, 2, 3, 4, 5」の掛け声に合わせて、どの子も楽しそうにすっていました。

次に、クッキー生地を、すったよもぎを混ぜ、そして、丸めて形を作っています。これは、日頃の泥団子づくりの経験が活かされ、みんなは団子を作る要領でうまく丸めます。丸めた生地を、トントンと押さえて形を整えでき上がりです。この時も、みんな「クルクル、トントン」とリズムを取りながら形作りをしました。みんなとても楽しそうです。形を整えたクッキー生地を、上手にアルミの皿に並べて、台所のオープンへ、クッキーを落とさないように、皿からこぼさないように気を付けて、みんなで運びました。でき上がったクッキーの味は、最高だったようです。どの子に尋ねても、「美味しかった」「3 つ食べた」「4 つ食べた」の答えです。中には、「10 個食べた」そんなに数があったのかな？

やはり自分達で作ったものは、美味しいようです。これが一つのきっかけで、また野菜嫌いがなくなることを期待します。明日 30 日に、年中さんは、芋の苗植えが始まります。秋の収穫が楽しみです。



おいしいクッキーになれ